

## 2024年生まれのアユ仔稚魚の資源状況

2024年生まれのヒウオ(アユ仔稚魚)の資源状況について、次のとおり評価をしています。

### 1. ヒウオ生息状況調査

#### 【目的・手法】

網口1m×2m、長さ8mの網を、図1で示す水域(●)の深さ約7m層で水平方向に約1km曳網し、採捕されたヒウオの数で生息量の水準を評価しています。

【調査日】 2024年10月4日、10月5日(1次)

11月5日、11月8日(2次)

12月2日、12月3日(3次)

#### 【調査結果】

- 全調査水域の平均採捕尾数は、第1次調査では14尾/曳網で平年値(138尾/曳網)の10%、第2次調査では45尾/曳網で平年値(65尾/曳網)の69%、第3次調査では16尾/曳網で平年値(18尾/曳網)の89%でした(表2)。
- これまでに、第1次調査の平均採捕尾数は9月中旬までの産卵数と正の相関関係があることが明らかになっています。今年はいずれの数値も少なく、同様の傾向がみられました。
- 全調査水域の平均体重は第1次調査で6.7mg、第2次調査で31.0mg、第3次調査で72.3mgであり、過年度の同時期に採捕されたヒウオと同程度でした(図2)。

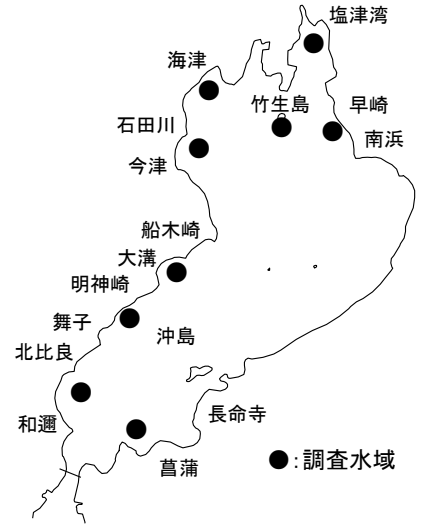


図1 生息状況調査水域

表2 ヒウオ採捕尾数の経年比較(尾/曳網)

	第1次	第2次	第3次
2014年	56	15	10
2015年	769	70	14
2016年	15	194	64
2017年	50	6	3
2018年	289	87	14
2019年	52	70	20
2020年	96	49	6
2021年	332	431	179
2022年	209	19	13
2023年	17	13	2
平年値	138	65	18
2024年	14	45	16

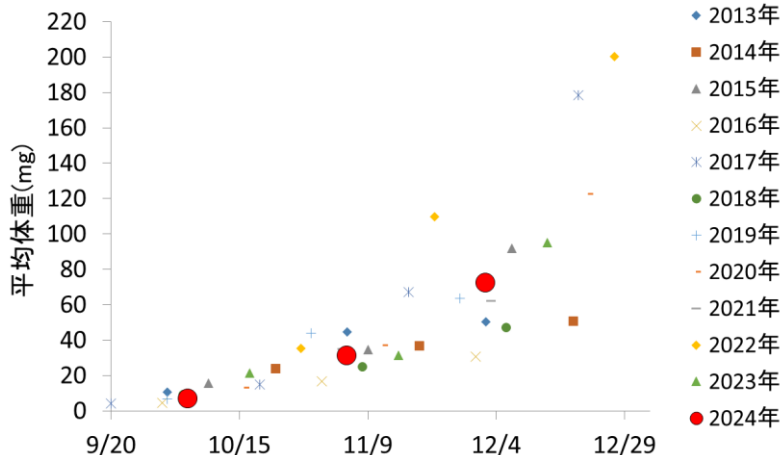


図2 調査日とヒウオ平均体重の関係

※平年値はH26年からR5年までの最大値・最小値を除いたものの平均)

## 2. ふ化日組成調査

### 【目的・手法】

生息状況調査と同様の手法で、図3に示す4水域(△)の深さ約7m層と、4水域のうち中央2水域の深さ約15m層で水平方向に約1km曳網し、採捕されたヒウオから耳石を取り出し解析することで、ヒウオが生まれた時期を把握しています。

【調査日】2024年10月5日、10月15日、11月5日、11月19日、12月2日、12月17日

### 【調査結果】

- 採捕されたヒウオは9月5日～11月10日の間に生まれたもので、10月1日～10月5日にふ化日のピークがみられました(図4)。

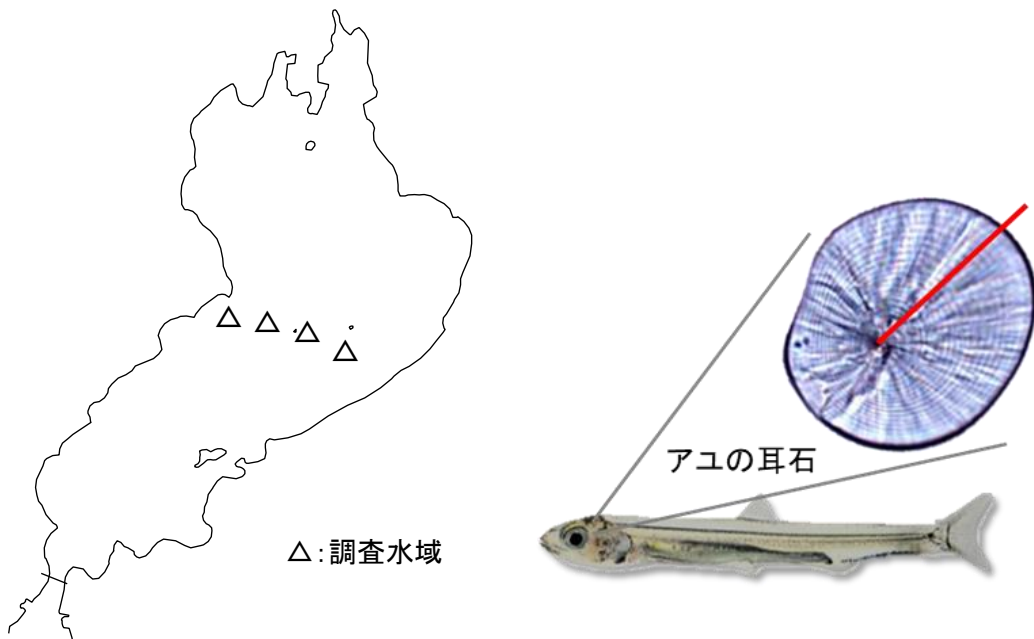


図3 ふ化日組成調査水域

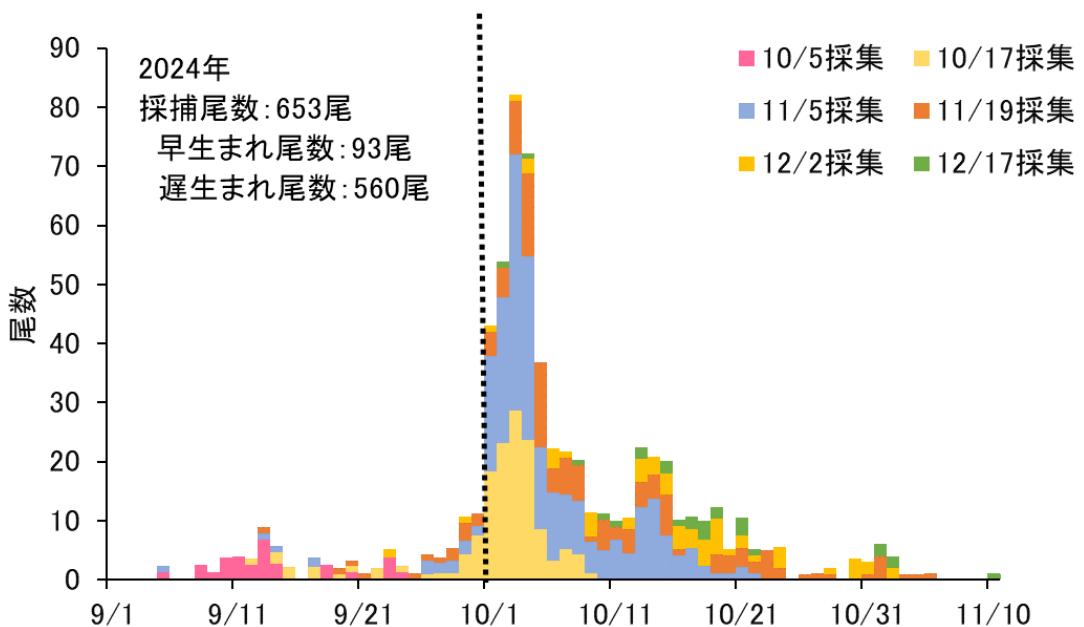


図4 採捕されたヒウオのふ化日別採捕尾数

### 3. 成育状況調査

#### 【目的・手法】

12月に漁獲されたヒウオの成育状況を把握するため、北湖一円の6地点で解禁日(12月2日)にエリ漁で漁獲されたヒウオの体長と耳石日周輪間隔から1日あたりの成長量を推定しました。

#### 【調査結果(図5)】

- 9月上旬生まれの成長速度、9月中旬生まれの成育初期における成長速度は平年値を下回った。
- 9月下旬生まれ、10月上旬生まれの成長速度は平年並みであった。
- 9月生まれ(上旬・中旬・下旬)の成長速度は昨年と比べて低かった。

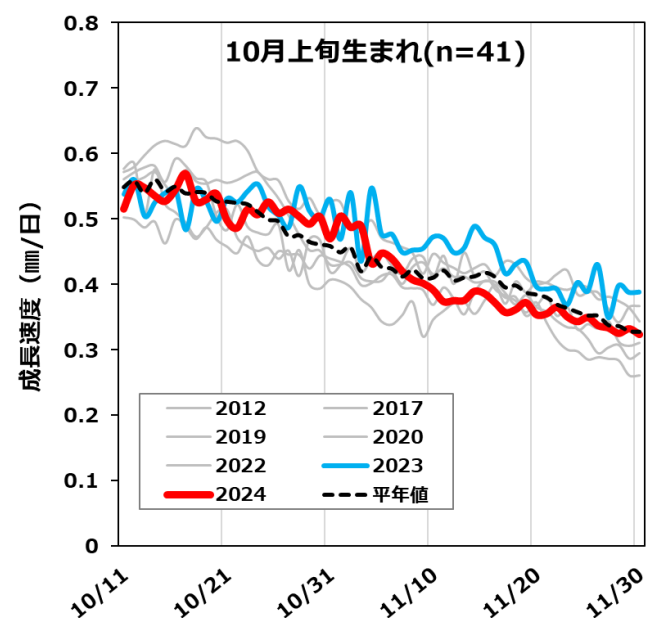
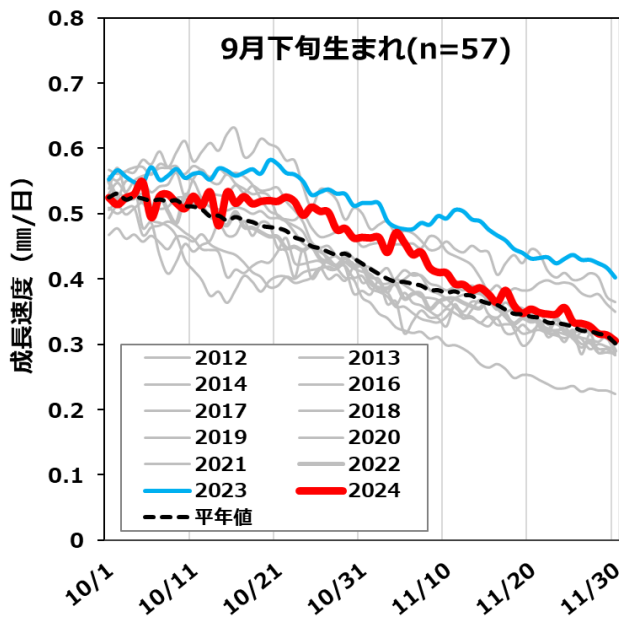
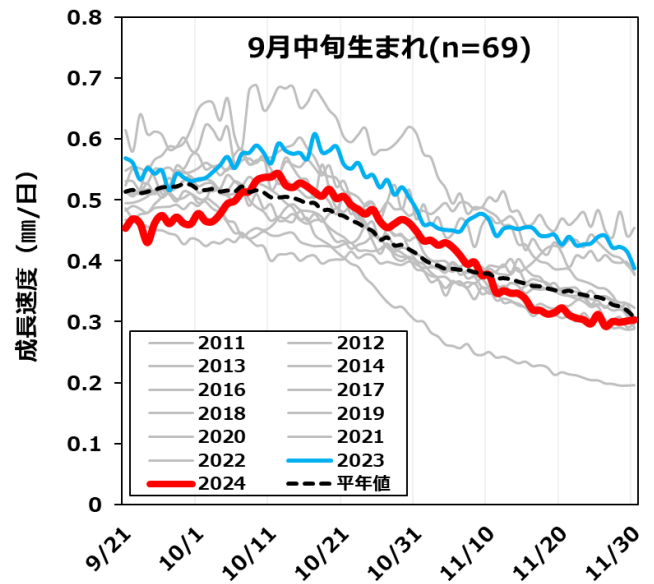
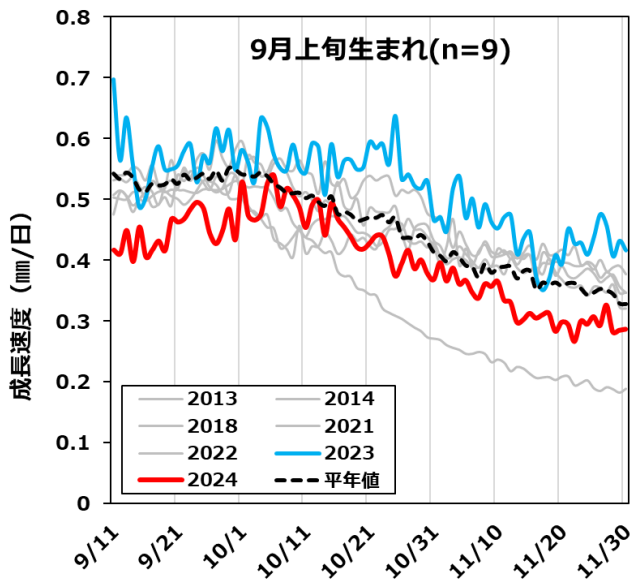


図5 解禁日エリ漁獲ヒウオの生まれた時期別成長速度